

平成 27 年度 第 1 回千葉県学校薬剤師会支部長会議報告

報告者 大塚昌孝（千葉県学校薬剤師会副会長）

平成 27 年 6 月 7 日、千葉県学校薬剤師会総会当日の午前中に第 1 回支部長会議が開催されました。当日は 22 支部中 17 支部の学校薬剤師会の支部長にお集まりいただき、本年度の学校薬剤師会の活動方針について本会執行部より説明がなされました。

今年度、千葉県では 766 名の会員体制で学校薬剤師活動を行ってまいります。これは昨年度より 26 名の会員増となり、確実に新人学校薬剤師が増えている傾向であるとうかがえます。そのため新人教育が急務となり、4 月 16 日に最近 1 ～ 2 年で入会した学校薬剤師を対象とした新人学校薬剤師研修会が開催されました。この研修は 66 名もの参加者で行われ、検査の方法や意義に関して、活発な質疑が出て参加者の熱心さが伝わる研修会でした。

今年度も常任委員会は広報グループ・講習研修会グループ・情報収集グループの 3 つに分け、活動を行ってまいります。学校薬剤師会のホームページも随時更新され、必要な報告書のテンプレートや各種の情報をダウンロード出来るようにしてありますので、是非ご活用ください。



平成 27 年度千葉県学校薬剤師会 総会及び研修会報告

報告者：宮代和幸（千葉県学校薬剤師会 常任委員）

平成 27 年 6 月 7 日（日）入梅前の暑い中 83 名あまりの方々が集い、平成 27 年度千葉県学校薬剤師会総会及び研修会が千葉県薬剤師会会議室にて開催されました。

総会において、平成 26 年度の活動報告及び決算報告が行われたのち、平成 27 年度の事業計画が執行部より説明され賛成多数により承認されました。

総会終了後、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部研究室室長 船田正彦先生をお招きし「危険ドラッグの依存性と毒性：最近の傾向について」と題して、御講演いただきました。

最近、危険ドラッグの使用による交通事故が増加しておりますが、危険ドラッグには 2 種類（カテノン系と合成カンナビノイド系）あるそうです。中枢興奮のカテノン系化合物では運転に及ぼす作用は、速度超過・運転機能障害・注意力の欠如が挙げられます。中枢抑制の合成カンナビノイド系で運転に及ぼす作用は、抑制作用・運動機能障害・視覚異常・注意力の欠如です。また、法的規制が有り乱用される薬物は、麻薬で 3 種類（あへん類とコカインや合成麻薬と LSD）あります。中枢抑制系のあへん類で精神と身体に依存があり、催幻覚や精神毒性はありません。中枢興奮系のコカインや合成麻薬で精神依存と神経毒性があり、身体依存や催幻覚はありません。また中枢興奮系の LSD で精神依存や催幻覚や精神毒性があり、身体依存はありません。覚醒剤は、中枢興奮のアμφエタミン類で精神依存や精神毒性があり、身体依存や催幻覚はありません。



総会風景



船田正彦先生

大麻では中枢抑制の大麻草やマリファナで精神依存や催幻覚や精神毒性があり、身体依存はありません。毒物劇物では中枢抑制のトルエンやシンナーで精神依存や催幻覚や精神毒性があり、身体依存はありません。

危険ドラッグは、2011 年 10 月に販売場所の増加により社会的問題になりました。

危険ドラッグの流通は、パウダー系・ハーブ(植物)系・リキッド系・切手など様々で、その販売方法は、店頭・自動販売機・ガチャガチャ・インターネットなどで販売されています。危険ドラッグの所持及び販売は、以前規制が無かったが今では規制されています。また、成分自体は国内で生産されていないため、規制が強化されたことにより海外からの流入を水際で出来る様になりました。水際で規制するために、簡易検出キットの充実にも努力しております。危険ドラッグの急性毒性は、吐き気・嘔吐・頻脈・振戦・痙攣・散瞳・意識障害・精神症状・横紋筋融解症・呼吸困難・死亡するケースもあります。危険ドラッグ成分を摂取したマウスは、無動状態となります。危険ドラッグの条件付け場所嗜好性試験では、マウスに危険ドラッグを摂取後黒い箱に入れ、プラセボを摂取後白い箱に入れるという操作を、3 回行なった後に白い箱と黒い箱を置くとマウスは黒い箱に入りました。これにより、危険ドラッグによる精神依存が形成されることが確認されました。合成カンナビノイド系の細胞毒性評価では、投与したマウスと投与していないマウスを MAP-2 抗体で染色すると神経細胞が明らかに違って投与したマウスで減少、このことにより合成カンナビノイド系薬物は、乱用により精神依存および細胞毒性が誘発されます。

薬物に手を出さないためには、始めてしまうキッカケを知ることが大切です。

キッカケの多くは、好奇心(どんな気分になるの)・仲間に勧められて(日本人に多い)・やせられる・ストレス解消・疲労回復・徹夜で仕事出来る(覚醒剤)・薬物とは知らずになどが挙げられます。薬物使用の初期症状は、多弁になったり・落ち着きがなくなったり・感情の起伏が激しくなったり・生活がルーズ(約束を守らない)になったり・今までと行動パターンが変わったりする為、身近な人が早く気付いてあげることが大切です。乱用してしまったら、薬物に手を出さないための取り組みや再び使用しないため、各都道府県の精神保健センターに相談することが大切です。

～次回研修会のお知らせ～

「平成 27 年度学校保健講習会・薬物乱用防止教室講習会」

開催日時：平成 27 年 11 月 1 日(日) 13:30 ～

会 場：千葉県薬剤師会 会議室

内 容：「タバコを取り巻く現状および防煙教育について」

講師：ファイザー(株) 健康増進推進部 泉水 孝雄 先生

「学校におけるノロウイルス感染対策について」

講師：和歌山県学校薬剤師会 西前 多香也 先生

※ 本研修の参加募集は改めてお知らせいたします。